

★今月の星もよう★

6月は梅雨入りし、昼の時間が1年で一番長い「夏至」を迎える時期でもあることから、星空を眺められる時間も少なくなっています。晴れた日には代表的な星の並び「春の大三角」と「夏のダイアグラム」を探してみましょう。南西の方角に見えるのは春の大三角。うしかい座の1等星アークトゥルスは「熊の番人」という意味をもちます。おとめ座の1等星スピカは「とげとげしたもの」という意味で、おとめ座の女神が持つ麦の穂先を表しています。その2つの星よりも西の方にあるしし座のデネボラは、「ししの尾」という意味をもつ2等星ですが、周りに明るい星が少ないので見つけやすいです。これら3つの星を結ぶと正三角形ができあがり、春の大三角を見つけることができます。

東の空に上がってくるのは夏のダイアグラム。東の高いところに見えていること座のベガ、ベガより低く北よりの方向に見えているはくちょう座のデネブ、さらにベガよりずっと南よりの方向に見えているわし座のアルタイルを結ぶと、夏のダイアグラムができあがります。近くにはヘルクレス座やへびつかい座など、初夏に見える星座も上がっています。

★天体観望あれこれ★

天体観望を楽しむ機材として天体望遠鏡があげられますが、手軽な機材として双眼鏡がおすすめです。

三脚で固定しなければならない望遠鏡と違って、双眼鏡は手持ちで自由に好きな方向を見ることができます。視野が揺れてしまう場合は、椅子に座ったり手すりに寄りかかったりして身体を安定させると、手振れを少なくすることができます。倍率は6倍から10倍程度で、口径(レンズの直径)が40mm程度のあまり重くないものを使うと疲れなくてよいでしょう。

双眼鏡を使うと天体を拡大することだけではなく、肉眼ではぼんやりとしか見えない星雲や星団など、より暗い天体を明るく見ることができます。この時期は、南東の方角にいて座のM8干潟星雲などを見ることができます。

月が小さくない、よく晴れた日に観察してみてください。



南東

南

★天文現象トピックス★

今月は、恒星が月に隠される現象を見ることができる絶好のチャンスです。

14日には、おとめ座β星(3.6等星)が上弦の月に隠されます。豊川市の時刻では、おとめ座β星は22時32分ごろに月の左側の暗い部分(影の部分)に隠れ、23時28分ごろに右側の明るい部分から再び出現すると予想されています。このように月が天体を隠してしまう現象を、「星食」あるいは「掩蔽」と呼びます。

倍率が7倍~10倍程度の双眼鏡を使って観察してみてください。



←南南西

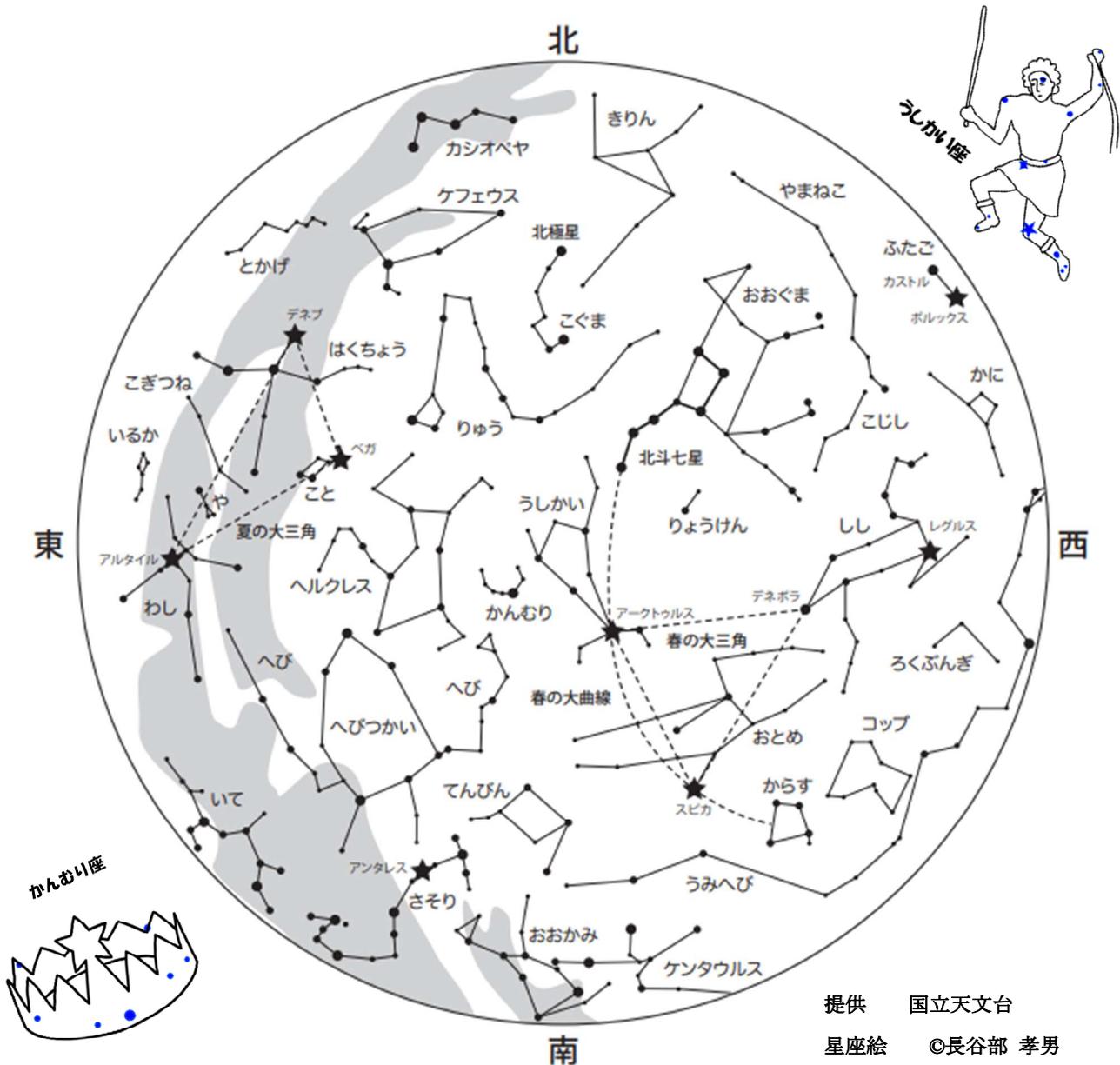
月齢8

西→

☆6月のプラネタリウムの内容については、別刷りの「投影案内」をご覧ください

☆プラネタリウムのお休み 6/3(月)、10(月)、17(月)、19(水)、24(月)

6月中旬午後9時頃の星空



提供 国立天文台
星座絵 ©長谷部 孝男

★ 6月の主な天文現象 ★

- 6日 (木) ● 新月
- 10日 (月) 月とプレセペ星団が接近
- 14日 (金) ● 上弦
- 20日 (木) さそり座のアンタレスが月に隠される
- 21日 (金) 夏至
- 22日 (土) ● 満月 (ストロベリームーン)
- 29日 (土) ● 下弦

東の空にのぼる夏の大三角

